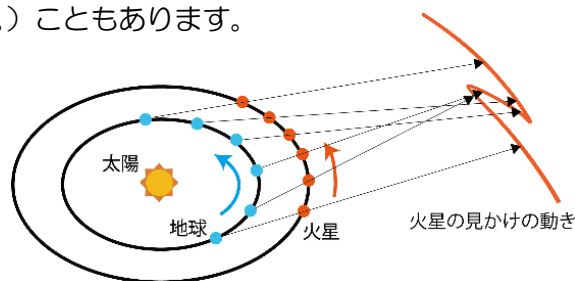


ジオスペース館だより

★ 惑星の不思議な動きのひみつ 【知って楽しい！天文の基礎知識(12)】

夜空の星が、1日ではほぼ一周する「日周運動」については、先月の第692号で説明しましたが、1年かけて同じ時刻に見える星の位置を観察していると、ほとんどの星が互いの位置関係を保ちながら、毎日少しずつ東から西へとすれ、1年で1周しているのが分かります。これは、地球が太陽の周りを1年かけて1周する公転によって起きる見かけの運動で「星の年周運動」と言い、季節の移り変わりを正確に知るため、古い昔から農業や神事などに利用されてきました。ところが、この観察を続けていると、いくつかの星が、星空全体の動きとは違う複雑な動きをしていることが分かり、まるで迷子のように惑う様から「惑星」と名付けられました。これらの惑星は、通常は星空全体の中を流れに逆らうように西から東へ（他の惑星と同じ方向に動くため「順行」と呼びます。）見かけの位置を変えていきます。ところが、時々、星空の動きよりも速く東から西へ動く（「逆行」と呼びます。）ことがあり、また、向きが変わるときには止まって見える（「留」と呼びます。）こともあります。

このような複雑な動きに見える理由は、地球より外側の惑星の場合、火星の例で説明すると、右図のように、地球と火星の公転速度の違いから、地球が火星を追い越す際に、地球から見ると火星が逆行するように見えるためです。逆行は、地球より内側の惑星では、地球が惑星に追い越されるときに起こります。惑星と外惑星で理由が違うのは、太陽に近い内側の惑星ほど公転速度が速いためです。



★ あおぼし(青星)・しろぼし(白星) 【星の和名のお話】

シリウスは、全天で21個ある1等星の中で1番明るく、その青白い輝きから「青星」という和名や、キラキラと大きく輝くことから「大星」、「キラキラ星」、「光坊主（ひかりぼうず）」といったユニークな和名を持っています。また、シリウスの少し北に位置するプロキオンは、白く輝く星の色から、「白星」「色白（いろしろ）」という和名や、プロキオンがシリウス「大星」より少し暗いことから「小さい大星」との和名を持っています。

★ 細い月が金星に接近！

星図はステラナビゲーター11を用いて作成

3月24日の日の入り後、晴れていれば、西の高い空に、明るく輝く金星に、細い三日月が近づき、とても美しい光景が見られます。その下の低い空には木星も見えるので、ぜひ観察してみましょう。また、28日の日の入り後には、空の高いところで、上弦となる直前の月が、1等星の明るさで輝く火星に近づきます。時間が進むにつれ、火星と月は並んで西に傾き、29日の午前0時頃に最も近づき、午前1時頃には、並んで西へ沈みます。ぜひ、観察してみてください。

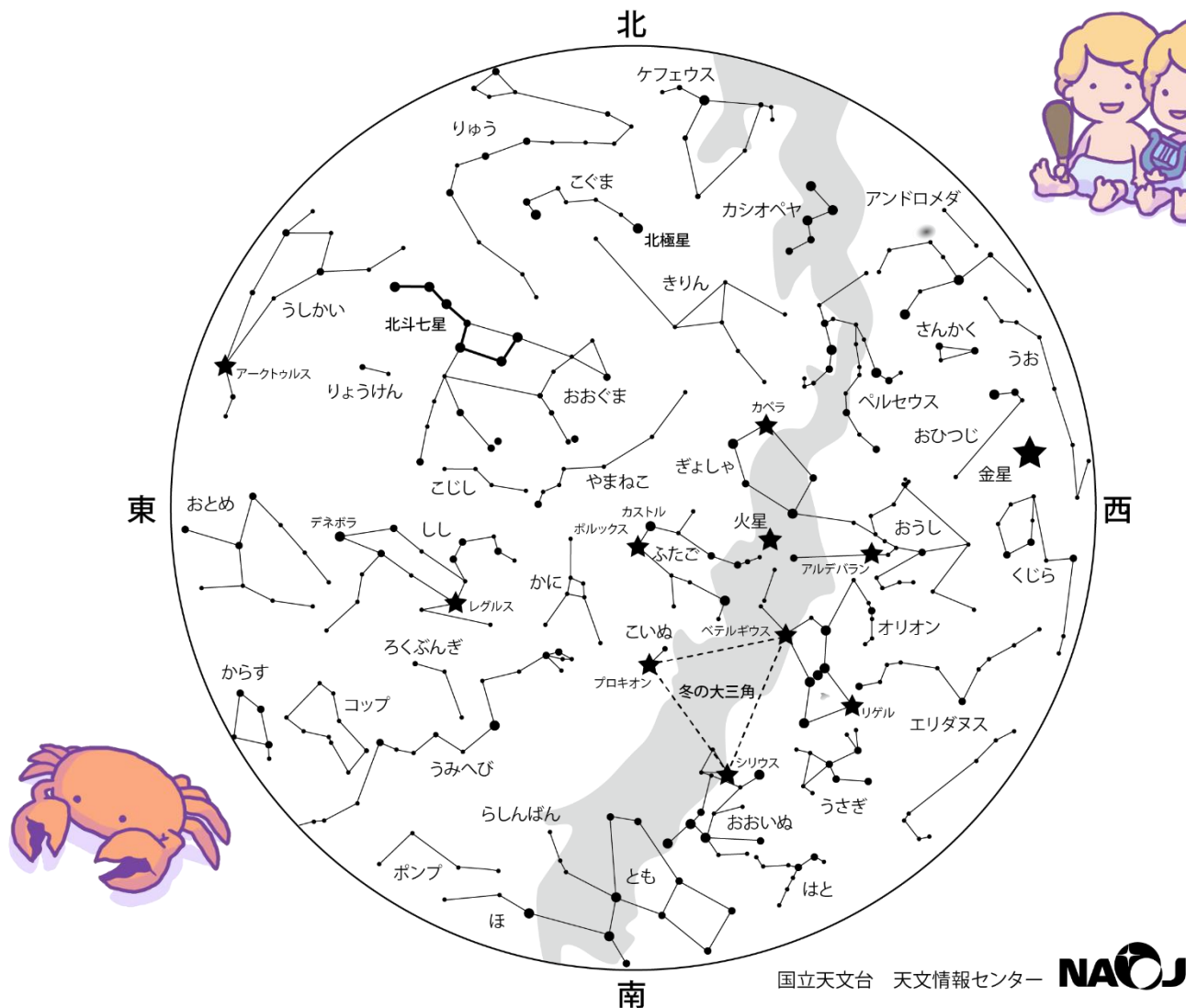


☆☆ プラネタリウムは、

月は大きさを強調して描いています

工事のため1月～3月は休館しています ☆

3月下旬午後8時頃の星空



★ 3月下旬の主な天文現象

21日(火)	春分 ^{しゅんぶん}	(九州中部以南で金星食)
22日(水)	● 新月 ^{しんげつ}	28日(火) 月と火星が接近 ^{かせい}
23日(木)	細い月と木星が接近 ^{ほそ ちくせい せっきん}	29日(水) 上弦 ^{じょうげん}
24日(金)	月と金星が大接近 ^{きんせい だい てんのうせい}	30日(木) 金星と天王星が接近

★ 国際宇宙ステーション (ISS) 豊川での主なデータ 3/15～31 ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 3月15日(水) [見やすさ ◎]	19:38 西南西	～	19:41 北西(天頂)
◇ 3月16日(木) [見やすさ ◎]	18:50 南西	～	18:56 北東
◇ 3月17日(金) [見やすさ ○]	19:40 西	～	19:44 北
◇ 3月18日(土) [見やすさ ◎]	18:52 西南西	～	18:58 北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。